大腸・肛門リハビリテーション科　診察日

2025年10月1日現在

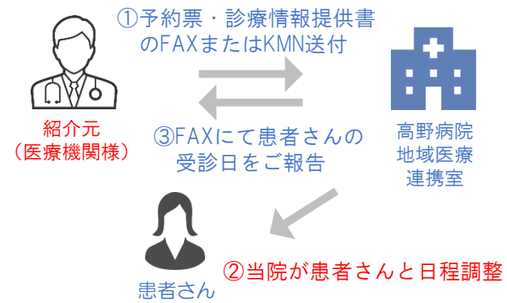
	月	火	水	木	金	土	日・祝
午　前	髙野 正太	髙野 正太 伊禮 靖苗	担当医	伊禮 靖苗 担当医	髙野 正太	担当医	休診
午　後	休診	髙野 正太	休診	休診	担当医		

※小児便秘外来/重症便秘外来（月曜日 午前・火曜日・木曜日 午前・金曜日 午前）

紹介患者さんのご紹介方法について

ご紹介いただく大切な患者さんがスムーズに当院を受診できる様、予約システムを導入しております。
紹介元の医療機関の皆様にはお手数をお掛けいたしますが、FAX（096-320-6530）または「くまもとメディカルネットワーク(KMN)」にてお申し込みください。

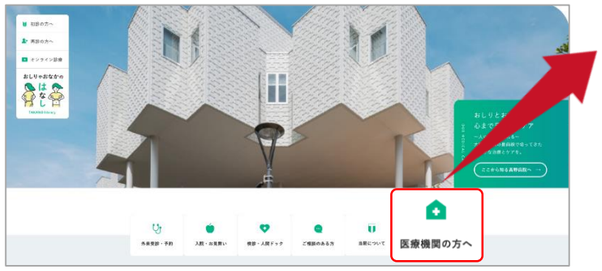
患者さんのご紹介方法



患者さんが当院を受診されたあとの流れ

外来患者診察予約表（兼診療情報提供書）について

当院ホームページよりダウンロードできます。



患者様のご紹介方法

「外来患者診察予約票(兼診療情報提供書)」 Wordファイル

「外来患者診察予約票(兼診療情報提供書)」 PDFファイル

担 当 窓 口

地域医療連携室

TEL 096-320-6520　　FAX 096-320-6530

（受付時間：平日9：00 ～ 17：00　/　土曜日9：00 ～ 12：00）

〒862-0971 熊本市中央区大江3丁目2番55号

大腸肛門病センター高野病院

大腸・肛門リハビリテーション科(大腸肛門機能科)連携情報誌

2025 Autumn Vol.9

Pelvic Functions

［ペルビック　ファンクション］

「大腸肛門機能診療センター」新センター長　就任のご挨拶

この度、大腸肛門機能診療センター長に就任いたしました伊禮 靖苗と申します。地域の先生方におかれましては、日頃より当院の診療にご理解ご協力を賜り、心より御礼申し上げます。

当センターは2017年の設立以来、専門病院として便秘、便失禁、排便困難、直腸肛門痛など、排便に関するあらゆるお悩みに向き合い、診療に取り組んでまいりました。新センター長として、これまでに培ってきた専門的な診療体制をさらに発展させ、特に女性に多い骨盤臓器脱に対する積極的治療やデリケートな排便の悩みを抱える患者さんに寄り添った、よりきめ細やかな医療を提供できるよう尽力してまいります。また、近年大きな課題となっている直腸がん術後の排便障害（LARS）への取り組みを強化し、客観的な評価と多面的な治療プログラムを整備することで、ご紹介元と連携し、がん患者さんの長期的なQOL向上に貢献したいと願っております。

当センターは、地域の先生方と緊密に連携し、排便に悩む患者さんにとって「安心して専門的な相談ができる地域の拠点」となることを目指してまいります。今後ともご指導ご鞭撻を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

いれい　やすえ
伊禮 靖苗
大腸肛門機能診療センター長
大腸肛門機能科部長

日本大腸肛門病学会専門医・評議員
日本外科学会専門医
日本消化器外科学会専門医

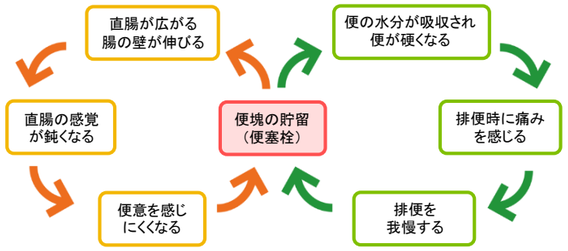
外来紹介

小児便秘外来

小児の排便障害の問題点

小児の排便障害は、本人自身の苦痛だけでなく、保護者にとっても大きな悩みになります。

① 排便時の痛みや出血に伴う恐怖心
② 食事摂取量や水分摂取への影響
③ 下剤・浣腸など薬物使用への抵抗感
④ 成長・発達や基礎疾患との関連



参考：小児慢性機能性便秘症診療ガイドライン2022

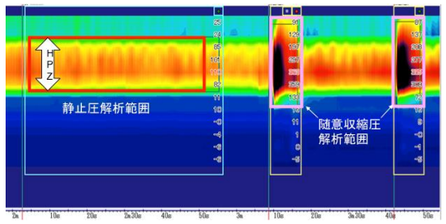
便が硬くなり排便時に肛門裂傷や出血を生じると、子どもは痛みを経験します。その結果、排便への恐怖心が強まり、排便を我慢してしまい排便障害が慢性化し悪循環につながります。一方で保護者は、薬や浣腸への依存や長期使用による習慣化がいつまで続くのか？といった不安を抱えています。
加えて、排便障害による食欲不振、それに伴う発達の成長の遅れ、さらに不登校といった身体的な問題にとどまらない二次的な影響を引き起こすこともあり、多岐にわたる問題につながる可能性があることを理解する必要があります。早期の介入とご家族への包括的なサポートが非常に重要です。

当院での検査・治療

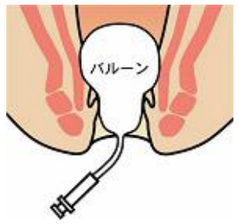
検査

小児便秘の診療において、当院では腹部レントゲン検査以外にも専門的検査を実施し、病態に即した治療選択および排便指導に活用しています。検査結果に基づき、便秘のタイプに合わせた治療や効果的なトイレトレーニングの指導を行っています。

●直腸肛門機能検査

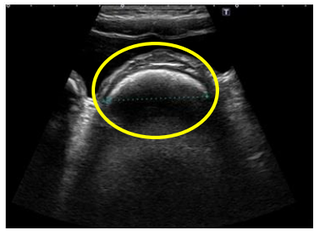


▲直腸肛門内圧検査波形
肛門内に直径5mmの圧力センサーを入れて肛門に力を入れない時(最大静止圧)や力一杯しめた時(最大随意圧)の肛門のしまる強さ(圧力)を測定します。



▲排出能力検査・訓練
肛門内にバルーンを入れて膨らませ、どの位の量を力んで排出できるかを調べます。

●便秘エコー
（腹部超音波検査）



▲小児の便秘エコー画像
硬便貯留の場合は音響陰影を伴う三日月型の高エコー域を示します。

治療

当院の大腸肛門機能科チームでは、医師、看護師(認定排泄ケア専門員)、薬剤師、理学療法士、臨床検査技師、診療放射線技師など、専門職が連携して治療にあたっています。専門的な検査で、患者さんの状態を多角的に把握し、より効果的で安全な治療(食事指導、身体機能の改善、直腸肛門機能の回復訓練、下剤の評価・調整、経肛門的洗腸療法など)を提供しています。

担当医

大腸肛門機能診療センター長
伊禮 靖苗

理事長
髙野 正太

「経肛門的洗腸療法」を行っています

「経肛門的洗腸療法」とは？

肛門から直腸にカテーテルを挿入し、1～2日に1回、300～1,000mlの体温程度の水を直腸に注入するすることにより、便を排出する排便管理方法です。使用手順について院内で指導し、その後は自宅で実施します。

メリットは？

- 排便障害に対する治療の選択肢が増える
- ご自分のタイミングで排便ができる
- 排便に費やしたり、思い悩んだりする時間の短縮に繋がる

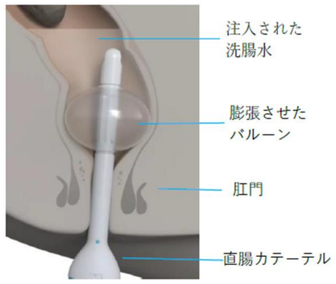
適応は？

脊髄障害を原因とする排便障害を有する患者さんで、従来の保存的療法では充分な改善を得られなかった方が保険適用となります。
また、食事療法・薬物療法など他の保存的療法で十分な効果がなかった方で、仙骨神経刺激療法や人工肛門造設術などの手術を受ける前の治療の選択肢として位置づけられています。

ただし、直腸の手術を受けたことがある方は、大腸穿孔の合併症が発生する危険性が高いため、保険診療の対象外になっています。

「経肛門的洗腸療法」の手順

「ペリスティーンプラス」という経肛門的洗腸療法用の医療機器を使用します。



基本的にはトイレで座って使用します。ウォーターバッグは床、またはお尻よりも低い位置に置いて使用します。

コロプラスト(株)HP
経肛門的洗腸療法の実践
(動画でご覧いただけます)

出典：コロプラスト株式会社